

鹿嶋市まち・ひと・しごと創生総合戦略

平成28年3月

鹿嶋市まち・ひと・しごと創生 総合戦略

目 次

I	はじめに	1
II	基本的な考え方	1
III	政策の企画・実行に当たっての基本方針と計画期間	3
IV	今後の施策の方向	3
	基本目標 1 本市における安定した雇用を創出し，就業を支援する	4
	基本目標 2 本市への新しいひとの流れをつくる	7
	基本目標 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	10
	基本目標 4 時代に合った地域をつくり，安心な暮らしを守るとともに，地域と地域を連携する	13

I はじめに

日本の人口は、2008年の1億2千8百8万人をピークとして人口減少の局面に入っている。この人口減少は、今後、急速に進むことが予想されており、2050年には1億人を、2100年には5千万人を割り込む水準にまで人口が減少するとの推計がある。加えて、現在も若い世代を中心に、地方から過密で出生率が極めて低い東京圏への人口流出が続いており、人口減少だけでなく少子化にも繋がっている。

このような中、国は、人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力のある日本社会を維持していくために、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、同年12月に「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定した。

これを受けて、本市では、まち・ひと・しごと創生法第9条に基づき、「鹿嶋市人口ビジョン」において示す本市の人口予測と、2060年における人口の将来展望を踏まえ、今後5年間で取り組む「鹿嶋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、喫緊の課題解決を図る。

本市の総合戦略においては、「人口減少と地域経済縮小の克服」及び「まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立」という2つの基本的考え方に基づき、2020年までの5年間に集中して取り組む内容について、具体的な数値目標を定めた施策を取りまとめ、効果検証を行いながら着実な施策の実施に努める。

II 基本的な考え方

1 人口減少と地域経済縮小の克服

(1) 「東京一極集中」を是正する

- ・ 高速バスの利便性や情報インフラを活かし、本市に定住したいと考える人へのくらしや働き方を実現する。
- ・ 鹿島臨海工業地帯及び鹿島港の活用を促進するとともに、起業・創業支援に取り組み、企業誘致とともに若い世代のチャレンジを支援する。
- ・ 市民提案制度により整備されてきた「鹿嶋神の道」を契機として、鹿島神宮をはじめとした本市の歴史資源を活かし、観光ブランド力を強化することで本市への来訪・交流機会の創出に取り組む。

(2) 若い世代の就労・結婚・子育ての希望を実現する

- ・ 各種制度の充実とともに、コンシェルジュの創設等、若い世代が有する不安に適切に対応できる体制づくりに取り組む。
- ・ 出産、子育て、教育に対して経済的側面及びノウハウの面から支援し、安心して暮らせる環境を創出する。
- ・ 若年層に対し雇用情報の提供を充実するとともに、若者のニーズにあった働き方を実現する。

(3) 地域の特性に即して地域課題を解決する

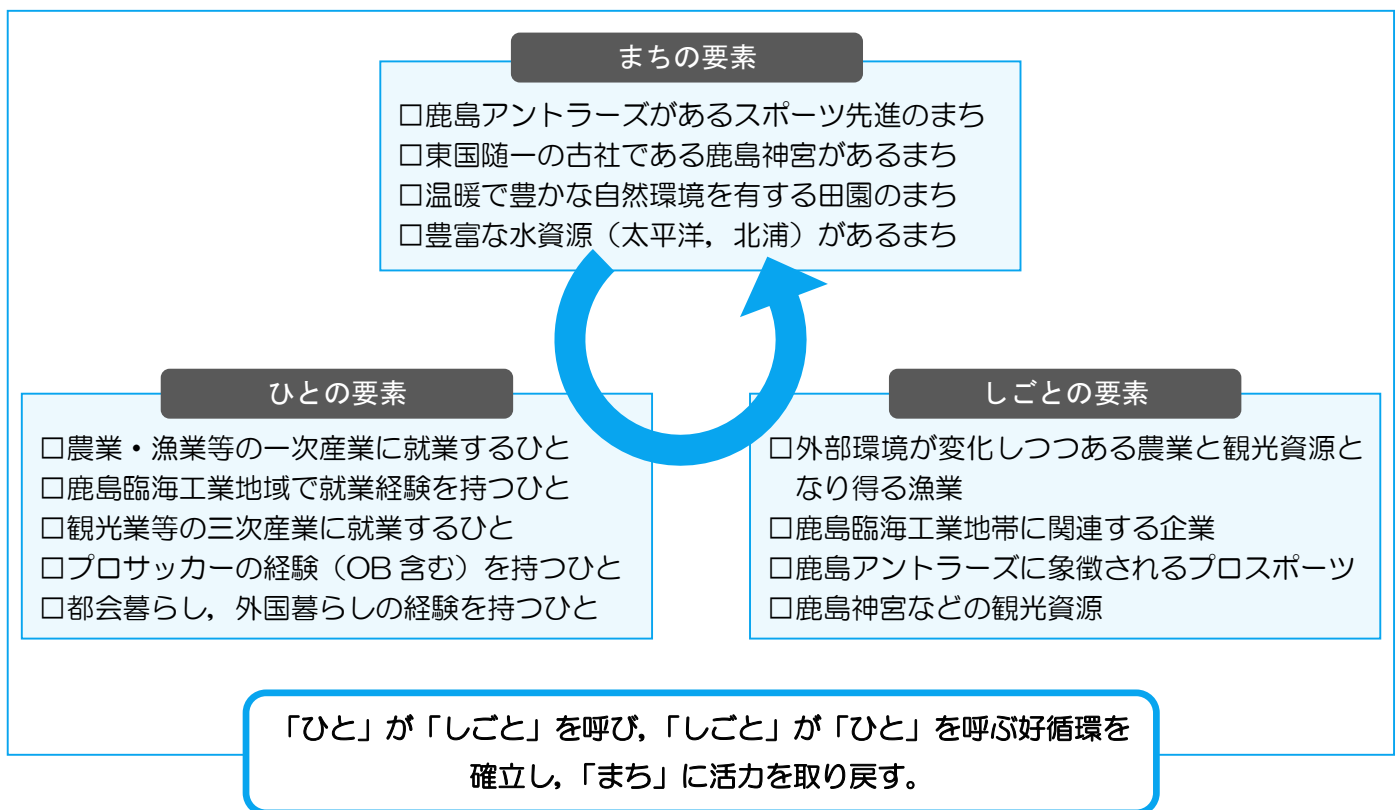
- ・「スポーツ先進のまち」というこれまでのまちづくりを生かし、スポーツ分野やものづくり分野を中心に、様々なノウハウを持つ人材の定住を促進し、新たなまちづくりの活力に繋げる。
- ・一次産品の「商品化・流通」分野において、様々な人材の活用を図ることにより、新たな産業を創出する。

2 まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

地方創生を図る上で重要な「まち・ひと・しごとの創生」と「好循環の確立」に向けて、「まち」、「ひと」、「しごと」それぞれについて、鹿嶋市固有の要素を下図のように整理した。

総合戦略においては、その長所の活用と短所の克服を図ることとし、4つの基本目標を設定し、これらの要素を踏まえた施策・事業を位置づける。

図一鹿嶋市における「まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立」の考え方



III 政策の企画・実行に当たっての基本方針と計画期間

○政策 5 原則

国における「まち・ひと・しごと創生」政策 5 原則（自立性，将来性，地域性，直接性，結果重視）に則って施策展開を図る。

○取組体制と PDCA（Plan-Do-Check-Action）サイクルの徹底

PDCA サイクルを徹底するため，市民代表や産官学金労言*の関係者など外部有識者で構成する「鹿嶋市総合戦略会議」において，各種施策の実施状況や重要業績評価指標*（KPI；Key Performance Indicator の略称）に基づく効果の検証，改善に向けた見直しを実施しながら，より効果的な施策の実行に努める。

○計画期間

この「鹿嶋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の計画期間は，2015 年度（平成 27 年度）から 2019 年度（平成 31 年度）までの 5 年間とする。

IV 今後の施策の方向

4 つの政策基本目標を設定し，それぞれの基本目標ごとに数値目標，施策の基本的方向，具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）を設定する。

目 標	内 容
《基本目標 1》	本市における安定した雇用を創出し，就業を支援する
《基本目標 2》	本市への新しいひとの流れをつくる
《基本目標 3》	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
《基本目標 4》	時代に合った地域をつくり，安心な暮らしを守るとともに，地域と地域を連携する

PDCA：事業活動における管理業務を円滑に進める手法の一つで，Plan(計画)→Do(実行)→ Check(評価)→ Act(改善)の 4 段階を繰り返すことにより，業務を継続的に改善する取り組み。

産官学金労言：地方創生において，行政だけでなく各分野での専門的知見を生かした取り組みを実現するための多様な主体として，(産)産業界・(官)行政機関・(学)教育機関・(金)金融機関・(労)労働団体・(言)メディアを指す。

重要業績評価指標(KPI)：key performance indicator の略で，総合戦略の策定において，各施策の効果を客観的に検証できる指標として，政策分野ごとに定める指標。

〈基本目標 1〉 本市における安定した雇用を創出し、就業を支援する

◆ **数値目標** ・雇用創出数 200人（平成31年度までの延べ数）

◆ 基本的方向

- 鹿島臨海工業地帯を中心としたものづくり産業の競争力を強化し、雇用の確保を図る。
- 鹿島アントラーズや鹿島神宮など、地域資源を活用した雇用を創出する。
- 農業生産法人を活用した事業の展開による雇用を創出する。
- 若年層を中心に創業・第2創業*を支援し、地域における新たな事業者を育成する。
- 若者の就業を支援し、若い世代の経済的安定を図る。
- ハローワーク等と連携し、市内求人情報を収集・発信することで、UIJターン*を推進する。
- 女性や高齢者、障がい者等の潜在的労働力を活用し、地域産業を支える人材を確保する。

◆ 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

（1）産業の振興と競争力強化

1-1 企業誘致の推進	茨城県と連携し、東京圏の企業に対して積極的な誘致活動を行う。	
	施策・事業	企業誘致に係る条例等の整備、改正及び情報発信
		茨城県と連携した誘致活動の展開
		企業遊休地の利活用
KPI	□市内事業所数 H26：2,512 → H31：2,522	

1-2 鹿島臨海工業地帯の競争力強化	港湾整備を推進するとともに、県が策定した「鹿島臨海工業地帯競争力強化プラン」に基づき、鹿島臨海工業地帯の競争力強化に取り組む。	
	施策・事業	港湾施設整備の促進
		港湾利用の促進
		公共埠頭内道路の配置・誘導
		鹿島臨海工業地帯競争力強化プランの実施
KPI	□製造品出荷額等（鹿嶋市＋神栖市） H26：2兆3,406億円 → H31：3兆円	

第2創業：既に事業を営んでいる中小企業・小規模事業者が、後継者が事業を引き継いだ場合などに業態転換や新事業・新分野に進出すること。

UIJターン：人口還流現象の総称であり、Uターン（地方から都市へ移住したあと、再び地方へ移住する）、Jターン（地方から大規模な都市へ移住したあと、地方近くの中規模な都市へ移住する）、Iターン（地方から都市へ、または都市から地方へ移住する）の総称。

1-3 観光産業の振興	多くの人が集まる各種大会・イベントを通じて本市のプロモーションを実施し、口コミで本市の魅力を広める仕組みをつくる。また、鹿島アントラーズ、鹿島神宮などと連携し、合宿地としての本市の魅力を発信し、新たな観光ビジネスを創出する。	
	施策・事業	各種イベント等を通じたシティプロモーション※ スポーツ・武道合宿の推進
	KPI	□観光入込客数 H26 : 2,599,727 人 → H31 : 3,000,000 人

1-4 農業の振興	新規就農者を支援するとともに、耕作放棄地の有効活用を図る。また、農業生産法人を支援し、新たな雇用創出と6次産業化を目指す。	
	施策・事業	新規就農総合支援事業
		耕作放棄地対策事業
		農業生産法人の支援事業
		(国事業) 6次産業化支援事業 (県事業) 食と農のチャレンジ事業
KPI	□新規就農者数 H31 までの累計 : 10 名 (H27:0 名)	

1-5 漁業の振興	本市の海産物をPRするとともに、地産地消を推奨する。	
	施策・事業	はまぐり祭り等イベントを通じた海産物PRの実施 地元海産物の市内消費ルートの確立
	KPI	□水産物取扱高 H27 : 609,695 千円 → H31 : 670,000 千円

1-6 創業支援	創業者の育成及び支援により、新たな創業を促す。	
	施策・事業	商い元気塾支援
		かしまチャレンジ応援事業(金融機関連携)
		創業・第2創業利子補給制度の創出
		店舗改装等補助金
KPI	□制度利用による創業者数 H27 : 0 人 → H31 : 3 人	

シティプロモーション：プロモーションは販売促進活動を指し、地域づくりにおいて、都市の魅力や知名度向上のための、イメージ戦略の策定、宣伝活動、広告媒体の整備等をいう。

(2) 就業支援

1-7 市内求人の見える化とUIJターンの推進	市内の高校生等に対して、市内の求人状況を『見える化』し、将来、鹿嶋市内で働けるような具体的職業を示す。また、東京圏にいる本市出身者に対して情報発信を強化し、UIJターンを推進する。	
	施策・事業	市内人材不足業種の調査と周知（企業連携事業） 関係機関と連携した市内企業の就職説明会の実施
	KPI	□就職説明会回数 H27：1回 → H31：2回
1-8 就職支援	若者に対して様々な就職支援を行い、有業率、正社員率の向上を図る。	
	施策・事業	地元企業説明会の開催
		インターンシップ※による就職支援
		市嘱託職員の就職支援枠雇用
KPI	□地元説明会回数 H27：1回 → H31：2回	
1-9 若者の中途採用支援	市内の企業に対し中途採用者の雇用を促し、若者の就業を支援する。	
	施策・事業	市内高等学校卒業者雇用奨励金事業
	KPI	□制度利用者数 H27：1名 → H31：1名
1-10 就業支援	女性や高齢者、障がい者等に対して就業支援を行い、地域産業を支える人材の確保を図る。	
	施策・事業	女性の活躍推進（働く女性・働きたい女性への支援）
		シルバー人材センターの充実
		特定求職者雇用開発助成金制度の周知徹底
		茨城県立鹿島産業技術学院の活用
KPI	□障がい者就職説明会回数 H27：2回 → H31：3回 □シルバー人材センター会員数 H27：413人 → H31年：450人	

インターンシップ：学生が将来のキャリア や夢を実現するために、就職・就業前の一定期間、実際の企業で働くこと。

〈基本目標2〉 本市への新しいひとの流れをつくる

- ◆ **数値目標** ・人口の社会増減数 計画期間の5年間で700人増
(平成25年72人増, 平成26年155人増)

◆ **基本的方向**

- 首都圏との近接性や交通インフラなどの立地優位性を最大限に活かす。
- 鹿島アントラーズや鹿島神宮を核とした, 新たな観光ブランドを構築する。
- 郷土愛教育のほか, 英語教育など本市の強みを活かした教育体制を充実させる。
- SNS*等を活用して, 情報発信を強化する。

◆ **具体的な施策と重要業績評価指標 (KPI)**

(1) 移住・定住の促進

2-1 東京圏通勤・通学推進事業	本市の立地優位性を活かして, 東京圏までの通勤・通学を推奨し, 若年層の転出抑制及び転入促進に努める。	
	施策・事業	鹿嶋-東京駅間の直行バスの充実
		高速バスの新ルートの開拓
		鉄道利用のPR及び促進
KPI	<input type="checkbox"/> 高速バス市内乗降者数 H26 : 315,364人 → H31 : 350,000人(年度) <input type="checkbox"/> 定期券利用者割合 H27 : 8.9% → H31 : 10%	

2-2 移住支援	空き家を活用した移住支援を展開し, 移住者と本市がWin-Winの関係となる事業を展開する。	
	施策・事業	空き家対策・活用事業 (お試し居住)
		移住促進事業 (UIJ ターンの推進, 専門相談員の検討)
		プロスポーツ経験者移住促進事業 就農希望者向けの移住促進事業
KPI	<input type="checkbox"/> 制度利用による移住者数 (新規) → H31 : 30人(年度)	

SNS : ソーシャル・ネットワーキング・サービス (social networking service) は, インターネット上の交流を通して社会的ネットワークを構築するサービスのことで, Facebook, LINE などが代表的なものであり, 近年では企業や政府機関, 自治体等での利用が進んでいる。

(2) 交流人口の増加

2-3 既存観光ブランド育成	本市には鹿島アントラーズや鹿島神宮など全国的に有名な観光資源があるものの、観光客の滞在時間が短いという課題を抱えている。そこで、既存の観光資源を有効活用した施策を展開し、交流人口の増加、滞在時間の延長を図る。	
	施策・事業	鹿島アントラーズと連携した事業の展開
		「鹿嶋神の道」事業の推進
		広域観光連携事業（水郷三都，北浦）
		神宮前参道の歩行者天国の実施
		インバウンドを見据えた日本文化体験の実施
		民泊の推進
		海岸の利活用（平井ー下津海岸の一体的利用）
KPI	□観光入込客数 H26：2,599,727人 → H31：3,000,000人	

2-4 新観光ブランド創出	鹿島神宮や海などの新たな魅力を活かし、新しい観光ブランドを創出することで交流人口の増加を図る。	
	施策・事業	スポーツコンベンション事業の推進
		鹿嶋古武道サミットの開催
		ビーチスポーツ促進事業
		漁業の観光資源化事業
		鹿行広域 DMO※の検討 地域全体の観光マネジメントを一本化する，着地型観光のプラットフォーム※組織
	KPI	□観光入込客数 H26：2,599,727人 → H31：3,000,000人

インバウンド：訪日外国人観光客。

DMO：Destination Marketing/Management Organization の略で、日本版 DMO は、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人とされている。

プラットフォーム：原義は駅などの台状の設備を指すが、ものごとの基礎・基盤という意味で使用している。

(3) 特徴ある教育の充実

2-5 郷土愛育み事業	本市で育った子ども達に、郷土愛を持ってもらえる教育や機会を提供し、将来本市に戻ってくる人を増やすほか、市外で本市をPRしてもらえるような人材を育てる。	
	施策・事業	歴史資料館の整備
		文化財と伝統文化の保存及び活用
		郷土教育の推進
		鹿島アントラーズホームタウン事業の推進
KPI	<input type="checkbox"/> 鹿嶋デジタル博物館閲覧者数 H27年度：10,800人 → H31年度：13,750人 <input type="checkbox"/> 鹿嶋市アントラーズPR大使数： (新規) → H31：1,000人(5か年累計)	

2-6 英語教育を核とした教育ブランド育成事業	言語が発達する幼児期から英語に触れ、小学校から実践的な英語コミュニケーション能力を育成するため、英語を母国語とする指導助手を幼稚園、小学校、中学校に配置し、継続的かつ効果的な指導を行う。同時に、子ども達に英語を話す機会を提供することで、楽しみながら英語のコミュニケーション能力向上を図る。	
	施策・事業	英語指導事業の充実
		イングリッシュサマーキャンプの充実
		留学生交流事業の実施
KPI	<input type="checkbox"/> 中学3年生時英検3級取得割合 H26：27% → H31：50% (年度)	

2-7 地元大学との連携	地元の大学と連携した公開講座等を開催し、地域課題の解決に取り組むと同時に、大学生と市民の交流を図る。	
	施策・事業	地元大学と連携した公開講座の開催
	KPI	<input type="checkbox"/> 公開講座参加者数 H27：30人 → H31：60人(年度)

(4) 情報発信の強化

2-8 SNS等を活用した情報発信の強化	若者を中心に国内はもとより海外でも普及している、Facebook等を活用し、タイムリーな情報発信に努めるとともに、口コミによる情報伝達の仕組みをつくる。	
	施策・事業	Facebook等を活用した情報発信の強化
		かしま大使の充実とPR大使(大学生等)の新設
KPI	<input type="checkbox"/> Facebookフォロワー数 H27：955人 → H31：3,000人(年度) <input type="checkbox"/> Twitterフォロワー数 H27：8,275人 → H31：15,000人(年度)	

〈基本目標3〉 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

◆ **数値目標** ・合計特殊出生率 1.78（平成20年～24年：1.77）

◆ 基本的方向

- 結婚に向けた意識啓発と男女の出会いの場を提供する。
- 理想の数の子どもを持てる環境づくりと切れ目のない子育て支援を行う。
- トータルサポートによる利用者の利便性向上と地域ぐるみの子育て支援体制を確立する。
- ワーク・ライフ・バランス※を推進し、健康で豊かな生活の実現を図る。

◆ 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

（1）結婚しやすい環境づくり

3-1 婚活支援	若者に対して単に出会いの場を提供するだけでなく、結婚に対する様々な意識啓発を行う。	
	施策・事業	結婚活動支援事業 ・婚活セミナー・婚活パーティーの開催 ・マリッジサポーター養成講座の開催 ・結婚に関する市民意識等アンケート ・若者への結婚に対する意識啓発
	KPI	□成立カップル数 H27：39組 → H31：200組（5か年累計）

（2）妊娠・出産・子育てへの切れ目のない支援

3-2 妊娠・妊産婦への支援	若い世代に対して、妊娠・出産・子育てへの切れ目のない支援を行い、安心して子どもを産み育てる環境を整える。	
	施策・事業	妊婦乳児健康診査の実施
		赤ちゃん訪問・子育て講座の実施
		不妊治療費の助成
		保健・医療従事者確保対策の実施
KPI	□制度利用状況 妊婦乳児健康診査 H27：95% → H31：96% 赤ちゃん訪問 H27：99% → H31：99% 不妊治療費助成 H27：77人/年 → H31：80人/年	

ワーク・ライフ・バランス：「仕事と生活の調和」のことで、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる」ことを目指す取り組み。

3-3 保育施設、学童 保育定員及びサ ービスの拡充	保育施設やサービスを充実させ、様々なニーズへの対応を図る。	
	施策・事業	保育利用定員の充実
		保育サービスの充実
		放課後児童クラブ・放課後子ども教室の充実
KPI	<input type="checkbox"/> 待機児童数 H27：0人 → H31：0人 <input type="checkbox"/> 病児保育施設数 H26：1施設 → H31：3施設 <input type="checkbox"/> 放課後児童クラブ定員 H27：745人 → H31：950人（年度）	

3-4 子育て費用の軽 減	子育て費用を軽減するための経済的支援を行う。	
	施策・事業	育児用品支援事業の実施
		子宝手当支給事業の実施
		第3子以降の子の保育料・給食費無料化の実施
		高校生までの医療費助成の実施
KPI	<input type="checkbox"/> 第2子以降の子の割合 H27：47% → H31：48%	

3-5 安心して子育て できる環境づく り	子育てに関する相談体制、診療体制を整え、安心して子育てできる環境を作る。	
	施策・事業	鹿嶋市夜間小児救急診療所の運営
		育児相談の実施
		母子・父子家庭の自立支援
KPI	<input type="checkbox"/> 制度利用者数 夜間小児救急診療所 H26：2,103人/年 → H31：2,300人/年 育児相談 H26：1,425人/年 → H31：1,500人/年	

3-6 トータルサポートによる利用者の利便性向上	各種切れ目のない支援策をパッケージ化するとともに、問合せ窓口をワンストップ化することで、より多くの方に制度を利用してもらえる環境を整える。	
	施策・事業	かしま子育てねっとポータルサイトの運営
		子育てコンシェルジュ*事業の実施 かしま子育て Life トータルサポート事業の実施 (出会い～結婚～出産～育児の総合支援として市の各種少子化対策事業をパッケージ化し、市内外にPR、ポータルサイトの充実、問合せ窓口のワンストップ化)
KPI	□第2子以降の子の割合 H27：47% → H31：48%	

3-7 地域ぐるみの子育て支援体制の確立	子育て世帯が集える「場」をつくり、同じ境遇の人たちがお互いに助け合いながら子育てを行える環境を整える。さらに、高齢者や子育ての先輩たちとも協力し、地域ぐるみの子育てが行える体制を確立する。	
	施策・事業	地域子育て支援センターの充実
		民間の子育て支援センター・つどいの広場の支援
いきいきふれあいプラザの運営(ひよこサロン・いきいきサロン)		
空き店舗を活用した子育て支援…シルバー人材センター補助(高齢者活用・現役世代雇用サポート事業)		
	空き家、空公営住宅を利用した子育て家庭への住宅支援	
KPI	□制度利用者数 子育て支援センター(つどいの広場含む) H26：29,629人 → H31：30,000人	

(3) ワーク・ライフ・バランスの推進

3-8 ワーク・ライフ・バランスの推進	市民や地元企業にワーク・ライフ・バランスの考え方を普及させ、一人ひとりが自分らしくいきいきと生活できる社会の実現に努める。	
	施策・事業	ワーク・ライフ・バランスの推進 (意識啓発及び情報提供)
	KPI	□ワーク・ライフ・バランス認知度 H27：21.1% → H31：35%

子育てコンシェルジュ：コンシェルジュは、ホテルの宿泊客に対する「総合世話係」を意味する。「子育てコンシェルジュ」は、子育ての不安や相談ごとに対し、ワンストップで総合的に子育てを支援することを目指す取り組み。

《基本目標 4》 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

◆ **数値目標** 市街化区域内及び大野三駅周辺の人口 37,600人（平成31年）

◆ 基本的方向

- 小さな拠点づくりや公共交通網を整備することによって地域の活力を維持する。
- 適切なストックマネジメント*により、公共施設、地域医療・介護や交通、商業など地域に不可欠な機能を維持する。
- 近隣市町村との連携体制を構築する。
- 地域のコミュニティを活性化し、若者から高齢者まで生き活きと暮らすことのできる地域づくりを進める。
- 高齢者が地域で活躍でき、健康に暮らし続けられる地域づくりを進める。

◆ 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

（1）人口減少に対応した地域づくり

4-1 まちなか居住の推進（コンパクトシティ化）	中心的市街地や地区計画エリアにおいて定住人口を増やす。	
	施策・事業	小さな拠点*の整備事業 ・大野三駅周辺地区計画区域を小さな拠点と位置づけ、地区施設を整備するとともに大野区域内定住（希望）者を拠点へ誘導する。 まちなか定住推進事業 ・空き家対策・活用事業（お試し居住）
	KPI	<input type="checkbox"/> 市街化区域人口 H27：36,621人 → H31：36,600人（維持） <input type="checkbox"/> 大野三駅地区人口 H28：913人 → H31：1,000人
4-2 地域公共交通網形成計画の策定と広域連携	今後の人口減少や超高齢社会においても対応することができる公共交通ネットワークを構築する。	
	施策・事業	地域公共交通網形成計画の策定 公共交通の広域連携の検討
	KPI	<input type="checkbox"/> 平成28年度策定予定の地域公共交通網形成計画の中で設定する。

ストックマネジメント：既存の公共施設(ストック)を有効に活用し、長寿命化や有効活用を図る体系的な取り組み。
 小さな拠点：小学校区など、複数の集落が集まる地域で、商店、診療所などの生活サービスや地域活動を、歩いて動ける範囲でつなぎ、各集落とコミュニティバスなどで結ぶことにより、地域の再生を目指す取り組み。

4-3 公共施設のファシリティマネジメント※の推進	公共施設の全体の状況を把握し、長期的な視点をもって、公共施設の更新や統廃合、長寿命化等を計画的に実施する。	
	施策・事業	公共施設等総合管理計画にもとづく社会資本の老朽化対策事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 橋りょう長寿命化修繕計画事業 ・ 市営住宅長寿命化計画事業 ・ 下水道長寿命化計画事業（浄化センター・宮中ポンプ場の更新） ・ 公園長寿命化計画（策定中） ・ 老朽管更新事業 ・ その他の計画事業
	KPI	□今後策定する公共施設等総合管理計画の中で設定する。

4-4 地域連携による経済・生活圏の形成	人口減少に対応したまちづくりを推進していく上で、近隣市町村と連携体制を確立する。	
	施策・事業	定住自立圏構想の検討 他の市町村と連携した施策の実施
	KPI	□新規広域連携事業数 3事業

(2) 地域コミュニティの再生と活性化

4-5 まちなかの賑わい創出事業	鹿島神宮周辺地区の空店舗及び未利用地の利活用を支援するとともに、街並み景観を再生しながら、かつての賑わいを取り戻す。	
	施策・事業	景観形成補助金の拡充 まちなか賑わい創出協議会の設立
	KPI	□市民主導の協議会の新設 H27：0組織 → H31：1組織

ファシリティマネジメント：業務用不動産（土地・建物・構築物・設備等）すべてを経営にとって最適な状態（コスト最小、効果最大）で保有し、維持するための総合的な管理手法のこと。

4-6 地域コミュニティの強化	地域のコミュニティを活性化し，若者から高齢者まで生き生きと暮らすことのできる地域社会をつくる。	
	施策・事業	地域コミュニティ活性化事業の推進
		自警団の充実
		環境サポーターの充実
		スポーツコミュニティ組織の充実
KPI	<input type="checkbox"/> 自警団 H26：18 団体 → H31：22 団体 <input type="checkbox"/> 環境サポーター H26：630 名 → H31：650 名 <input type="checkbox"/> 学校開放利用団体数 H27：137 団体 → H31：150 団体	

(3) 安全で安心な暮らしを支える地域づくり

4-7 救急医療体制の充実	市民の健康と，本市を含む鹿行南部地域医療圏内の休日・夜間の救急医療体制の充実を図るため，関係医療機関に対し支援を行う。	
	施策・事業	在宅当番医制診療業務委託事業
		医師確保支援事業
		二次救急病院運営費補助事業
		鹿行南部地域病院群輪番制病院運営事業
KPI	<input type="checkbox"/> 人口 10 万人当たり医師数 H26：126 人 → H31：130 人	

4-8 消防団を中心とした地域防災力の充実強化	地域防災の中核を担う消防団員を確保し，安全・安心な暮らしを守る地域社会をつくる。	
	施策・事業	消防団員の確保（女性消防員の加入促進）
		総合防災訓練の実施
		自主防災組織の充実・強化
KPI	<input type="checkbox"/> 定員充足率 H26：92.0% → H31：95.0%	

4-9 高齢者が社会参加でき、健康に暮らし続けられる地域づくり	高齢者が社会参加できるような仕組みを整え、さらに健康に暮らし続けることができるように、シニアスポーツ大会等を実施する。同時に、高齢者が長く快適に住み続けられるように、生活支援サービスを実施する。	
	施策・事業	<p>シルバー人材センター・シニアクラブの活動支援</p> <p>地域ケアシステムの推進 (在宅ケアチームによる要援護者の在宅生活支援)</p> <p>介護予防・地域支え合い事業 (地域福祉推進委員・シニアスポーツ大会・食の自立支援・外出支援)</p> <p>地域交通利用料金助成事業 (タクシー初乗り運賃助成)</p> <p>介護予防・日常生活支援総合事業 (高齢者筋力向上トレーニング・認知症サポーター養成・シルバーリハビリ体操教室・口腔改善教室など)</p>
	KPI	<p><input type="checkbox"/>シニアクラブ会員数 H27 : 3,394 人 → H31 : 3,800 人</p> <p><input type="checkbox"/>シニアスポーツ大会参加数 H26 : 2,444 人 → H30 : 2,800 人</p> <p><input type="checkbox"/>はつらつ教室 参加数 H26 : 118 人 → H30 : 240 人</p> <p><input type="checkbox"/>高齢者筋力向上トレーニング H26 : 67 人 → H30 : 90 人</p> <p><input type="checkbox"/>認知症サポーター養成 H27 : 1,906 人 → H31 : 4,300 人</p> <p><input type="checkbox"/>高齢者ふれあいサロン活動 H26 : 3,247 人 → H30 : 4,550 人</p>

